

©「旧軽井沢の歴史と景観を守る会」事務局
編集・作成中のドラフトです。今後内容変更があり得ます。
事前の許可無く引用や掲載を禁じます。
内容に関するコメント等は当事務局までご連絡頂ければ幸甚です。

軽井沢 別荘文化の歴史と景観保全 年表

出所:

- 1 長野県軽井沢町公式HP 「軽井沢町のあゆみ」、「保養休養地130周年記念誌」、「軽井沢町勢要覧2016」
- 2 長野県HP
- 3 軽井沢観光協会HP 「軽井沢の歴史」
- 4 軽井沢高原文庫HP 「軽井沢文学年表」
- 5 宮原安春 『軽井沢物語』 講談社 (1991年4月)
- 6 岡村八寿子 『祖父野澤源次郎の軽井沢別荘地開発史』 星雲社 (2018年8月)
- 7 小林収 『避暑軽井沢』 (1999年11月)
- 8 中島松樹 『軽井沢避暑地 100年』 国書刊行会 (1987年8月)
- 9 宍戸實 『軽井沢別荘史』 住まいの図書館出版局 (1987年)
- 10 内田・藤谷・山形 『戦前期における軽井沢別荘地と洋風別荘の変容に関する研究』 (2000年)
- 11 花里俊廣 『戦前期の軽井沢の別荘地における外国人の所有・滞在と対人的環境の様態』 (2012年)
- 12 梅干野・土本・武智 『軽井沢における保養地景観の形成過程』 (2010年)
- 13 朝吹登水子編 『37人が語るわが心の軽井沢 1911ー1945』 (1986年8月)
- 14 酒井美意子 『ある華族の昭和史』 (1986年6月)
- 15 酒井美意子 『元華族たちの戦後史』 (2016年6月、原典は1995年7月校了)
- 16 大堀聰 『心の糧(戦時下の軽井沢)』 (2020年9月)
- 17 『避暑地軽井沢135年ー軽井沢の文化遺産&資料集1』軽井沢文化遺産保存会(2021年3月)
- 18 野々村・渡辺・木村・小木「軽井沢の別荘地開発と植林の関係性についての研究」令和3年度日本大学理工学部学術講演会予稿集

685	白鳳13年	浅間山噴火(日本書紀に記載あり)	
887	仁和3年	浅間山噴火	
1108	天仁元年	浅間山噴火(最大規模、山頂部陥没、前掛山にくぼみ、山麓一帯は火砕流で焼き払われたか)	鳥羽天皇
1281	弘安4年	浅間山噴火	後宇田天皇
1596	慶長元年	慶長元年(1596年)から14年(1609年)にかけて烈しい噴火	徳川家康将軍
	慶長	中山道として浅間三宿(浅間三宿(軽井沢宿・沓掛宿・追分宿)が栄える。	
1684	貞享	追分宿:中山道六十九次のうち、江戸より二十番目の宿場(旅籠屋71軒、茶屋18軒、商店28軒、その他5軒) 中山道と北陸道の分岐点。 沓掛宿:草津への入口。 軽井沢宿:江戸より十八番目の宿場。碓井峠の山越えのため、大名が駕籠や馬を乗り換える。	徳川綱吉
1688	元禄	幕府領	徳川綱吉
1688	元禄元年	芭蕉、『更科紀行』の旅で中山道の追分・沓掛・軽井沢宿を通り、碓氷峠を越える。	宝永4年(1707)、富士山宝永大噴火
1721		浅間山噴火	
1775		浅間山噴火	1776 アメリカ独立宣言
1783	天明	浅間山 天明大噴火(日本の火山噴火の災害として最大級) 4月から7月初旬(旧暦)まで断続的に活動を続けていた浅間山は、7月8日(旧暦)に大噴火。 火砕流に嬬恋村(旧鎌原村)では一村152戸が飲み込まれて483名が死亡、群馬県下で1,400名を越す犠牲者。 鎌原村の本格的な発掘調査は、昭和54年から始まり、「浅間山麓埋没村落総合調査会」(昭和54、56年)、 嬬恋村教育委員会(昭和55年、昭和60~62年、平成元~3年)により実施 天明の大飢饉	徳永家治、家斉
			1789 フランス革命始まる
1798			1796 英国人プロートン、室蘭に来航。 1797 露人、択捉島に上陸。 1798 ナポレオン、エジプト遠征始まる。
1800			1800 伊能忠敬、蝦夷地測量開始

1825		1808 フェートン号事件。 1811 ロシア艦長ゴローウニン逮捕。 1816 英国、琉球に来航、貿易を求める。 1817 英国船、浦賀に来航。 1821 伊能忠敬「大日本沿海輿地全図」 1825 外国船打ち払い令 1837 大塩の乱。生田万の乱。モリソン号事件。	
1840		1840 オランダ商館長、アヘン戦争を報告。	1840 アヘン戦争
1841		1841 天保の改革	1842 南京条約
1848			1848 米国加州、金鉱発見、ゴールドラッシュ 1851 太平天国の乱
1853		1853 ペリー浦賀来航、久里浜上陸	
1854	安政元年	1854 ペリー浦賀に再来航、日米和親条約調印、日露和親条約調印 1855 日蘭和親条約調印 1858 日米修好通商条約を無勅許調印、日蘭、日露、日英、日仏修好通商条約調印 1858 安政の大獄始まる。 1860 桜田門外の変、攘夷運動激化。 1862 横浜に聖心教会（現在の山手教会） 1863 長州藩外国船砲撃事件 1864 四国艦隊下関砲撃事件 1865 英国公使パークス、横浜に着任。 1866 薩長連合、徳永慶喜、征夷大將軍・内大臣	1862 ドイツ、ビスマルク「鉄血政策」表明。
1865	慶應元年		
1867	慶應3年		
	慶応4年		
1868	明治元年	英国医官ウイリス、軽井沢に泊まり、パークス公使に手紙で報告する。	1867 米国、ロシアからアラスカ購入。 1867 キリスト教禁教を継続 1867 マルクス「資本論」
1869	明治2年	4月、英国人、浅間山登山。	1869 スエズ運河開通。
1870	明治3年	追分油屋に、米国、英国、仏、伊、デンマーク、プロシア、スイス各国人、宿泊または休憩。	1869 カロゼース塾（後の女子学院） 東京・横浜間で電信開通 1870 大教宣布 1870 フェリス女学院
1871	明治4年		1871 廃藩置県 1871 岩倉具視、大久保利通、木戸孝允、伊藤博文らを欧米派遣（1873まで） 1871 新貨条例（通貨単位：円） 1871 前島密、郵便制度創設。
1872	明治5年	軽井沢本陣敷地内に軽井沢郵便局開設（明治17年廃局）。 軽井沢村に峠町が合併。	1872 壬申戸籍、旧士族階級を士族、それ以外を平民とする一方、旧公家・大名や一部僧侶等を新たに華族として特権的階級とし、宮内庁の支配下に置く。3311万人。 1872 学制公布。 族称を、 皇族 （29人）、 華族 （427家、2666人）、士族（128万人）、平民に統合。
1873	明治6年	「長野新報」、発行（明治14年「信濃毎日新聞」へ）。	1873 徴兵令施行、陸軍省、海軍省設置 1873 禁制の高札を除去（キリスト教容認） 1873 神戸私塾（神戸女学院）
1874	明治7年	追分旧本陣土屋一三が扶桑社を設立、原野を開墾して養蚕を進行する。	1874 地租改正条例 土地所有権、私有財産権確立 1874 女子師範学校設立。
1875	明治8年	鳥居義処 （とりいよしずみ）、軽井沢「官有地」の原野100万町歩払下げを受ける。その後「民有地」を6年にわたり買収し、離山から矢ヶ崎までの312町歩を牧場とし、馬匹改良に尽くす。また、落葉松（20町歩＝約20ha）の植林をする。および18	
1877	明治10年		1877 西南戦争 1877 英国、インド帝国成立（ヴィクトリア女王、インド皇帝を兼位）

1878	明治11年	明治天皇、北陸東海巡幸で追分旧本陣を行在所とする ⁹ (そのために長野県から借金で軽井沢本陣再建。)末松謙澄、英国公使館付書記官として渡英(明治19年まで)	1878	エジソン、電球を発明。
1879	明治12年	スウェーデンの探検家、ノルデンショルド男爵、浅間山より六里ガ原を通り軽井沢に至る ⁹	1879	独・墺同盟
1880	明治13年		1880	官営工場払下概則制定。 1880 刑法制定。
1881	明治14年	陸軍軍医総監林紀が軽井沢を最良保健地として認め、脚気患者を転地療養のため、軽井沢の亀屋に收容さす ⁹ 長倉村の山林所有の記録(県村誌)では、アカマツ林が点在し、カラマツは離山の一部、東西二丁、南北五間というごくわずかな記載であった。 ¹⁸		
1882	明治15年	旧小諸藩士稲垣正直、長尾原で牧場を始める ⁹	1882	日本銀行条例。 1882 独・墺・伊三国同盟
1883	明治16年	長野県令大野誠の息子考七郎、および小諸藩士鳥居義処、プランテーションを開く ⁹ 雨宮敬次郎、官有地5百町歩、民有地6百町歩を買い、プランテーションを開く⁹ 雨宮敬次郎、年に30－40万本のカラマツを農民とともに植樹¹⁸ 陸軍中佐佐川(川上)躁六、矢ヶ崎山麓に牧場と別荘を開く ⁹ および ¹⁸ 独行政学者カール・ラトゲン、内地旅行の途次、軽井沢三度屋に一月滞在する ⁹ 碓氷新道を兼事業として着工 ⁹	1883	東京でコレラ流行、5千人以上死亡。 1883 鹿鳴館 開館
1884	明治17年	3月、軽井沢牧場、雲場牧場開設 ⁹ 碓氷新道、坂本～離山間工事竣工。これにより旧中山道の軽井沢宿が衰退する。 雨宮敬次郎、離山下に邸宅を構える。離山裾野、南原、南軽井沢で払下げ、開墾開始。	1884	清仏戦争 日本鉄道会社の上野―高崎間開通。 1884、キリスト教信者30,230名、 司教54名、伝道師252名、教会数84。 1884 甲申事変 1885 天津条約 1885 内閣制度発足。伊藤博文内閣成立。
1885	明治18年	中山道幹線(日本鉄道)の高崎―横川開通。国鉄直江津線が軽井沢まで開通。 横川と軽井沢間が鉄道未開通、同区間は鉄道馬車(3時間)。東京―横川は8時間。	1885	内閣制度発足。伊藤博文内閣成立。
1886	明治19年	4月、カナダ生まれの英国聖公会宣教師アレクサンダー・クロフト・ショー、ジェームス・ディクソンの二氏は、 「相前後して(内地旅行の途中)、此の地を過ぎ、山容野色の如何にも泰西的なるを見て、親しく土地の状況を視察して歸京し、再び同年七月上旬に、二氏何れも家族を伴って來たり、八月下旬迄滞在した。(ショー氏は高林薫平居宅、ディクソンは佐藤萬平所有の家屋を借り受けた。)此処に追い於て、ショー氏は此の滞在によって實見した軽井澤の風土が避暑地として好適なるを證明し、専ら内地在留の歐米人に紹介して來遊を勧め、遂に二十一年五月自ら卒先して避暑用の別荘を同地内大ヶ塚山の頂に建てた、これが仰も軽井澤に於ける避暑別荘の嚆矢である」(佐藤孝一『かるみざわ』より) 数家族の外国人、初めて軽井沢で夏を過ごす。(信濃毎日に「外人の避暑」との言葉。)ショーは明治19年別荘を建設している、大塚山の別荘はその2年後だった(宮原氏)泉喜太郎、天然氷製造を始める。	1886	帝国大学成立。 1886 小学校令発布。 1886 再びコレラ流行、10万人以上死亡。 (軽井沢でもコレラ患者発生、6名死亡。)
1887	明治20年	碓氷馬車鉄道会社設立(坂本―軽井沢間で約2時間半を要した)。 小瀬国有林の測量開始(国有林と民有林の境界、群馬県と長野県の境界等) ¹⁸ 「閑散とした平原」 ¹⁸	1887	仏領インドネシア連邦成立
1888	明治21年	アレクサンダー・クロフト・ショー、大塚山に別荘を建てる。 9月、クーパー・ロビンソン夫人、芭蕉碑前での写真撮影。保母伝習所創設者となったマーガレット・ヤングが自転車に手をかけている。 軽井沢郵便局再開局(雲場に再設置、三等郵便局となる) 鉄道直江津～軽井沢間開通 東長倉村設置(離山)、西長倉村設置(借宿)、軽井沢尋常小学校(神宮寺)、長倉尋常小学校(宝性寺)、追分尋常小学校(泉洞寺)開校 別荘数2戸 ¹ 滞在外国人158人。	1888	鹿鳴館で仮面舞踏会。 日本―メキシコ通商航海条約 日米、日独、日露新条約(外務大臣大隅重信)。
1889	明治22年	東長倉郡、西長倉郡が発足。 外国人約173名が避暑。 外国人別荘5戸(信濃毎日新聞)。 別荘数5戸 (現在の軽井沢町全体では、世帯数727、人口3249人) ¹	1889	帝国憲法発布。 外務大臣 大隅重信 爆弾テロで負傷。 英国公使ヒュー・フレイザー赴任。
1890	明治23年	英国公使ヒュー・フレイザー、二手橋付近に公使別荘(土地約3千坪)を建て避暑。 森鷗外 「みちの記」を連載(馬車鉄道の乗車時の記載がある)。	1890	第1回衆議院議員選挙。帝国議会開く。 1890、教育勅語。

	外国人滞在者239人(英国人130名、米国人71名、ドイツ、フランス、オランダ等)。		
1891	明治24年 3月 横川～軽井沢間アプト式工事着工(鹿島組、鹿島岩蔵)。 正岡子規、新碓氷峠を鉄道馬車で越えて軽井沢へ。正岡子規「かけはしの記」を連載。 旧道の旅籠、芸者屋で、9月30日まで歌舞音曲を慎む決議。	1891 内村鑑三不敬事件(反キリスト教への動き)。 濃尾大地震。	
1892	明治25年 旧軽井沢に肉屋二軒、牛乳屋三軒、氷屋二軒できる。 別荘数9戸 ¹	ミッションスクール在学学生数激減。	
1893	明治26年 アプト式鉄道、横川～軽井沢間開業。上野～直江津間全通。 徳富蘆花訪れる。「碓氷の紅葉」を発表。 八田裕二郎(海軍大佐)別荘を建てる(邦人別荘の最初)。 十五銀行役員、山本直良、三笠山麓湯沢10万坪入手。 別荘数14戸 ¹		
1894	明治27年 外国人宣教師(プロテスタント)による「軽井沢会議」始まる。 英国公使ヒュー・フレイザー急死。夫人メアリーフレイザー帰国。 亀屋旅館(佐藤万平)を欧米風の外国人客専用ホテルに改造し、万平ホテルと改名	日英通商航海条約調印。 日清戦争始まる。 日米通商航海条約調印。	
1895	明治28年	日清講和条約(下関条約)	
1896	明治29年	李氏朝鮮に対する清国の一方的な宗主権の放棄承認させた他、清国から台湾、澎湖諸島、遼東半島を割譲され、また巨額の賠償金を獲得。 1896 民法制定(1898施行)	
1897	明治30年 軽井沢合同基督教会創立(協会は大正5年に改築されたユニオンチャーチ)。 ダニエル・ノーマン来軽(軽井沢避暑団創立者の一人)。 「善良な風俗を守り、清潔な環境を築こう」という高潔な精神が避暑地軽井沢の輝かしき伝統と歴史を貫く 「軽井沢憲章」の根底となり、軽井沢を支えてきた。 明治30年頃に貸別荘やホテルが営業を開始 菊池音之助、軽井沢病院開業。 軽井沢三等郵便電信局と称し旧軽井沢に移転、電信事務取扱い開始(東京～軽井沢間) 別荘数30戸 ¹	1897 貨幣法(金本位制確立) 1897 旧森林法公布	
1898	明治31年 末松謙澄(通信大臣・子爵)、二手橋脇に別荘を建てる(泉源亭)。鹿島岩蔵、貸別荘を作る。 渡辺半太左衛門、200町歩の植林と数戸の貸別荘を建設。 ¹⁸	第1次大隈重信内閣。 富岡製糸場スト、社会主義運動展開	
1899	明治32年 外国人、900年、または999年の地上権を別荘に設定する ⁵ 外国人避暑客約900名。 伊藤博文、長野訪問の際に軽井沢滞在(雨宮別荘に滞在)。 尾崎紅葉「煙霞療養」を発表。 軽井沢郵便局、外国人避暑客のため外国為替事務を開始 軽井沢ホテル開業(旧軽井沢本陣、佐藤熊六) 鹿島岩蔵、6棟の別荘建設、現在の「鹿島の森」の始まり。 ¹⁰	外国人国内雑居が許される。 私立学校でのキリスト教教育禁止。	1899 義和団事件 米国、対中門戸開放、機会均等提案
1900	明治33年 小島烏水「浅間山の煙」を発表。 エロイーズ・カニングハムの両親、来軽、その後愛宕山に別荘。 三井三郎助、別荘建設。 ¹⁰ 別荘数51戸 (現在の軽井沢町全体では、世帯数752、人口4122人) ¹	治安警察法公布 北米移民の禁止	1900 北京議定書
1901	明治34年 夏期避暑外国人保護と取締りのため、通弁巡查を配置 別荘数60戸 ¹		
1902	明治35年 万平ホテル、桜の沢に移転(洋風建築、洗浄式下水装置完備、洋室22、敷地2万坪) A・C・ショー氏死去(青山外国人墓地に葬る) 川田龍吉、雲場池に水門を造る。農作業の他、カラマツの植林を行う。 ¹⁸ 旧軽井沢の別荘数は68戸 ¹	日英同盟調印。	
1903	明治36年 山本直良(三笠ホテル設立者)、25万坪を買収。酪農を計画。 山本直良、三笠に別荘を建てる。	日露戦争始まる。	

1904	明治37年	田山花袋「雪の信濃」を発表。志賀直哉、里見淳、柳宗悦ら来軽。	与謝野晶子「君死にたまふこと勿れ」
1905	明治38年	山本直良、三笠ホテル落成(翌年5月開業)。 東郷平八郎元帥、万平ホテルに宿泊。 「日本基督教団軽井沢教会」設立。 新渡戸稲造、旧軽井沢に別荘を建てる。メリー夫人とともに。 ウイリアム・メレル・ヴォーリズ来日(24歳) 別荘数91戸 ¹	1905 日露講和条約(ポーツマス条約)調印。 夏目漱石「吾輩は猫である」
1906	明治39年	5月 三笠ホテル開業 三泉寮(日本女子大学夏期寮)開設。 土屋写真館開業(小林治平)。	鉄道国有法公布。
1907	明治40年	新軽井沢区有志が軽井沢スケート場を造る。 三笠ホテル「日本館」落成。 乃木希典夫妻、三笠ホテルに宿泊。 幸田露伴短編小説「軽井沢」を発表、出版。 軽井沢スケート場開設。 別荘数120戸 ¹	
1908	明治41年	軽井沢彫り家具二店、出店。 外国人野球チームのグラウンド完成、慶應、早稲田チーム等と試合。 A・C・ショー記念碑建立。	
1909	明治42年	追分に夏期仮停車場を開設(7~9月まで3ヶ月間) 韓国皇太子の李垠、末松謙澄に連れられ泉源亭に滞在。 末松生子(伊藤博文の娘)「軽井沢百首」を発表。 軽井沢滞在者数、英国496名、米国542名、ドイツ50名、中国23名、スイス19名、フランス13名、等。 別荘数152戸 ¹	朝鮮統監、伊藤博文、ハルビン駅で暗殺される。 三井家、三井合名会社を設立。
1910	明治43年	軽井沢町大洪水で甚大な被害を受ける。川越石川、湯川氾濫。 「旧軽井沢商店街を流れ、平地は湖を化した。」 ¹⁸ 沓掛駅(現中軽井沢駅)開業。 桂太郎総理大臣、離山に別荘を建てる(大正7年頃、野澤源次郎の所有となる)。 西園寺公望侯爵、新渡戸稲造、避暑来軽。 別荘数163戸 (現在の軽井沢町全体では、世帯数934、人口5152人) ¹	韓国併合に関する日韓条約。 「白樺」創刊(武者小路実篤、志賀直哉、有島武郎、等)
1911	明治44年	軽井沢郵便局新築、二階建洋館、二等郵便局に昇格。 本多清六、大洪水後の復興計画案を長野県より依頼され、「軽井沢遊園地設計方針」立案。 外国人避暑客数1191人。 箱根土地、鹿島、野澤組による別荘地分譲 旧軽井沢から、南部、西部へ別荘地広がる 旧軽井沢商店街は“軽井沢銀座”と呼ばれるほどの賑わい ウイリアム・メレル・ヴォーリズ「ヴォーリズ合名会社」設立、建設設計活動開始。	1911、イエズス会、専門学校令による大学(上智大学)開校。
1912	明治45年	5月 軽井沢駅改築 5月 鉄道・横川~軽井沢間アプト式電化。国内初の電化。 正宗白鳥、軽井沢ホテルに宿泊。 夏目漱石、湯田中への途次、軽井沢に立寄る。 別荘数は193戸 ¹	
1912	大正元年	8月、長野県、本多清六の「軽井沢遊園地設計方針」を、財政逼迫のため不採用とする。 草軽軽便鉄道株式会社設立。 8月4日、佐藤孝一『かるみざわ』教文館、発刊。佐藤孝一はつる屋旅館佐藤仲右衛門の長男。 半田善四郎により日本人で初めて貸別荘業が行われる。 ¹² ウイリアム・メレル・ヴォーリズ「近江ミッション軽井沢事務所」開設。 ¹⁰	
1913	大正2年	「軽井沢避暑団」(KSRA, Karuizawa Summer Residents' Association)発足(ダニエル・ノーマンらが私財を提供)。	

(ジョン・ロビンソン、F・A・ロンバード、藤島太麻夫、ダニエル・ノーマン、島田三郎、八田裕二郎、R・A・トンプソン、J・J・チャップマン、C・W・アイグルハートの9名の理事による財団法人。)

後藤新平、筒井の土地、約四万六千坪を買収。

野澤源次郎、土地買収を始める。

別荘数216戸

「1986年から1915年は旧軽井沢開発の第1期、外国人の別荘地として、特に、愛宕山下(旧中山道北側)、旧中山道南側(森裏)、浅間隠、萬平ホテル周辺、桜の沢、釜ノ沢周辺、西側一帯(精進場周辺)で別荘建設が進む」(要約引用) 10

1914	大正3年	長野電燈佐久支店により、新・旧軽井沢、離山、沓掛に電燈がつく(952燈) 星野温泉、旅館開業 野澤源次郎、病気療養のため来軽。 野澤源次郎、二手橋先の英国公使別荘を購入。 尾崎行雄、別荘「莫哀山荘」を建てる(1218番、二手橋から碓氷峠に向かう右側)。テオドラ夫人とともに。 尾崎行雄「山荘閑話」「軽井沢がすきなわけ」 陸軍大将男爵 福島安正、旧軽井沢に別荘を建てる。	シーメンス事件。 第二次大隈重信内閣。 第一次世界大戦始まる。
1915	大正4年	7月 草津軽便鉄道営業開始(新軽井沢～小瀬間を蒸気機関車、距離10キロメートル、大正13年電化) 野澤源次郎、川田竜吉らの所有地、雲場原、離山から三度山にかけ約200万坪を買収。 野澤源次郎、土地分譲、別荘分譲を開始。橋口信助の「あめりか屋」と組み、建築約50戸。 徳川慶久公別邸、細川護立侯別邸、等。 8月 陸軍飛行機が東長倉小学校庭に着陸。県下初の飛行機飛来。 ヴォーリズ、軽井沢での建設として近江ミッション建物を本通りに初めて建設、その後さまざまな山荘を含め約60棟を建設設計。10	
1916	大正5年	キャンベル牧師夫妻殺害事件 有島武郎、三笠の山荘「淨月庵」で執筆開始。 8月 詩聖タゴール、三井別荘(三泉荘)で、学生に講話。 第一回軽井沢スケート大会開催。 ダニエル・ノーマンは「軽井沢の村長さん」。 早稲田大学グランド敷地、野澤組より購入。 軽井沢あめりか屋建築部出張所設置(現在の旧軽井沢ロータリー公営駐車場付近、野澤組出張所と並ぶ場所) 「1916年から1929年は旧軽井沢開発の第2期、日本人の別荘地として企業が中心になって開発が進む。」10	1916、聖心女子学院高等専門学校設立。
1917	大正6年	大隈重信、離山麓に別荘を建てる。 カナダ人貿易商R・M・アンドリュース、別荘を建てる。 新渡戸稲造、三度山山麓に新別荘建てる。 7月 草軽軽便鉄道、小瀬温泉～吾妻間営業開始。 上野～軽井沢間、汽車で5時間 堤康次郎、沓掛の60万坪買収。	ロシア革命、ソビエト政権樹立。
1918	大正7年	堤康次郎、「千ヶ滝遊園地(株)」設立、開発着手。 藤屋旅館、営業開始。 軽井沢ユニオンチャーチ、ノーマン、バルコムらにより開所 (ヴォーリズ設計で改築)10 早稲田グランド開設。 7月「軽井沢通俗夏季大学」開講(南原)。総裁後藤新平、会長・学長新渡戸稲造 (軽井沢通俗夏季大学講堂は、野澤が無償提供。) 講義内容:吉野作造「デモクラシー」、河合榮治郎「宗教運動の社会的意義」、小山内薫「歌舞伎の本質」、 有島武郎「ホイットマン」、「生まれ出ざる悩み」、新渡戸稲造「サーター・レザータス」(カーライル、英語)、等。	8月シベリア出兵。米騒動発生。 第一次世界大戦終わる。
1919	大正8年	近藤友右衛門、碓氷峠周辺を買収し、観光施設として整備。 8月11日、軽井沢ゴルフ倶楽部(会長徳川慶久、副会長G・N・モギー)を設立。 根津嘉一郎、矢ヶ崎山麓10万坪を買収し、開発する。 有島武郎「小さき影」を連載。若山牧水、来軽。	6月、ベルサイユ条約調印。国際連盟設立決定。
1920	大正9年	堤康次郎、千ヶ滝遊園地を箱根土地(株)に改称、箱根、千ヶ滝の開発促進。 鬼押出80万坪払い下げ、発地126万坪買収。 関西学院グリークラブ、軽井沢日本人教会の讃美歌礼拝出演、ユニオンチャーチでコンサート開催。	国際連盟発足。新渡戸稲造、国際連盟事務局次長。

		軽井沢ゴルフ倶楽部創立 。会長・徳川慶久 別荘数413戸（現在の軽井沢町全体では、世帯数1372、人口6875人） ¹	日本初のメーデー。	
1921	大正10年	星野温泉で「芸術教育夏季講習会」が開かれ、山本鼎、北原白秋、島崎藤村、鈴木三重吉らが講師として参加（自由教育協会主催）。 軽井沢避暑団による夏季診療所開設 北原白秋「落葉松」を発表。		
1922	大正11年	軽井沢集会堂 建設（設計ウイリアム・メレル・ヴォーリズ）（福井菊三郎、朝吹常吉氏らの寄付による） 東長倉村 （大正12年より軽井沢町）、別荘税徴税開始。 東長倉村信用購買販売組合創立（組合員数121名） 室生犀星 、つるや旅館で避暑。 与謝野寛・晶子夫妻、内村鑑三、星野温泉に滞在。	シベリア撤兵。	
1923	大正12年	東長倉村、町制をしき、軽井澤町と改称（人口5012人、890戸） 有島武郎 、三笠の山荘「 淨月庵 」（軽井沢1068番）で婦人公論記者の波多野秋子と情死。 堀辰雄 、 室生犀星 に誘われ初来軽、つるや旅館に滞在。 摂政宮殿下（後の昭和天皇）行啓。大隈重信別荘に滞在。 信濃追分駅開業。 グリーンホテル開業。 春原平八郎「維新以後の軽井沢小観」、富豪による軽井沢別荘の建設、軽井沢の土地価格の高騰、等。	関東大震災 。	
1924	大正13年	8月、 芥川龍之介 、 室生犀星 、 堀辰雄 ら、つるや旅館に滞在。 9月、芥川「 軽井澤日記 」（雑誌『隨筆』）、室生「 碓氷山上之月 」を発表。 軽井沢避暑団夏季診療所、 軽井沢サナトリウム となる（設計ヴォーリズ）。 石橋乗馬、貸馬業を始める。 軽井沢町歳入（6万7793円）に占める別荘税（約1万円）の割合は約15%。		
1925	大正14年	6月、避暑団新診療所落成（「 軽井沢サナトリウム 」、ニール・ゴードン・マンロー博士の「マンロー病院」） （→堀辰雄の「美しい村」でもサナトリウムレーンは頻繁に登場、またマンロー博士は「レイノルズ先生」として登場） 再度つるやに芥川、室生、堀ら滞在。芥川龍之介「越びと」を発表。 南軽井沢飛行場完成。 土井晩翠 、 吉田絃二郎 夫妻、星野に滞在。	治安維持法可決 。	桑原千代子「医師マンローの業績」より:マンローは手術期を逸した癌を抱え毎夏の軽井沢出張診療報酬だけで経済を支え厳しい官憲のスパイ視に痛めつけられ乍ら最後迄無料診療を続け、春迄の食料の他一銭もない極貧の中で生涯を終った。一九六三年発表の横浜山手病院功労者名簿に追加掲載された。
1926	大正15年	旧軽井沢地区ハウス番号実施 （避暑団市政委員会と軽井沢郵便局との協議による） 北白川宮、沓掛に別荘を建てる。 草軽電鉄、新軽井沢～草津間全線開通。55, 5km 若山牧水 、来軽。 皇族・華族（ 近衛文麿 、 徳川慶光 等）、実業家（ 三井弁蔵 、 朝吹常吉 、 正田貞一郎 、 根津嘉一郎 等）、 学者・文化人（ 阿部磯雄 、 河合栄治郎 、 沖野岩三郎 、 内村鑑三 、 山室軍平 、 正宗白鳥 、 土井晩翠 、等） 信濃毎日新聞、「ブルジョア、貴族、政治家の夏の息抜き場といった感じ」（8月8日） 近衛文麿、「あめりか屋」建築による別荘を、軽井沢第1号別荘として野沢源次郎から購入。 朝吹家別荘（設計ヴォーリズ）。 軽井沢集会堂 （設計ヴォーリズ） ¹⁰	新渡戸稲造、国際連盟事務局次長退任。	
1927	昭和2年	竹田宮、旧軽井沢に別荘を建てる。 堀辰雄 「ルウベンスの偽画」を発表。 志賀直哉 「沓掛にて」を発表。 東京～軽井沢間の定期連絡飛行始まる（南軽井沢飛行場）。 南軽井沢二十間道路完成。 避暑客数、日本人6025人、外国人、米国518名、英国285名、ドイツ122名、中国93名、カナダ21名、ロシア19名、等、 20か国、1110名。 ¹¹ 別荘数、外国人別所有217戸、日本人所有367戸、計584戸。 ¹¹ 軽井沢幼稚園開設。	金融恐慌 。 渡辺銀行 、 十五銀行 等取り付け騒ぎ。	
1928	昭和3年	前田栄次郎、前田郷建設。 朝香宮、千ヶ滝に別荘を建てる。 軽井沢上下水道、完成。 南軽井沢飛行場完成。 長谷川伸 「沓掛時次郎」を発表。	東京一大阪間旅客便就航。	

1929	昭和4年	<p>軽井沢テニスコートのクラブハウス竣工(設計ヴォーリズ)。</p> <p>軽井沢上水道完成(年=要確認)</p> <p>田中冬二「軽井沢の氷菓子」を発表。</p> <p>箱根土地(株)、軽井沢千ヶ滝中区で映画館、テニスコート、プール等を備えた「千ヶ滝遊園地」営業開始。</p> <p>愛媛県旧大州藩主加藤泰秋子爵長男、加藤泰治(北海道帝国大教授)、釜ノ沢に別荘建築(「旧加藤邸」)。</p>	世界大恐慌。	京都市、風致地区の指定
1930	昭和5年	<p>阿部知二「山のホテルで」を発表。横光利一「寝園」を連載。</p> <p>「財団法人南ヶ丘会」を組織し、新ゴルフ場建設を企画する(昭和8年完成 18ホール)</p> <p>「1930年に、雨宮プランテーション跡地49万坪及びその接続地を含め約56万8千坪を買い取り、新ゴルフ場分を除いた約21万8千坪を別荘地として分譲した。」¹⁰</p> <p>この頃までに六本辻ロータリー原型完成。</p> <p>八田裕二郎死去(81歳)。1890年頃より40年間毎夏軽井沢で過ごす。</p> <p>別荘数819戸、避暑客数、外国人1200人、日本人3183人、計4383人。¹¹</p> <p>「1930年に外国人の所有する別荘は「愛宕山下」「桜の沢」「浅間隠」「釜ノ沢」「陣馬」辺りに集中している」¹¹</p> <p>「これらの地域は外国人所有の外国人のための別荘地として存在し、軽井沢のコア的な役割を果たしていたと考えられる。」¹¹</p> <p>別荘数819戸¹</p>		(3,400ha→現在17,938ha)
1931	昭和6年	<p>リンドバーグ夫妻、軽井沢に来訪。</p> <p>岸田國士「浅間山」を発表。川端康成、菊池寛ら来軽。</p> <p>別荘数844戸¹</p>	満鉄線路爆破事件(満州事変の始まり)。	
1932	昭和7年	<p>軽井沢ゴルフ倶楽部、南が丘会によって開場。</p> <p>市村今朝蔵、南原で「友たちの村」創設、我妻栄、蠟山政道、等別荘建てる。</p> <p>軽井沢南原文化会発足。</p> <p>本間秀麿、甲山荘園開発¹²</p> <p>テオドラ尾崎(尾崎行雄夫人)、ロンドンにて死去(61歳)。長女相馬雪香。</p> <p>駐日アメリカ大使ジョセフ・グルー、新旧ゴルフ倶楽部で交流、朝吹家との交流。</p> <p>近衛と親交があった政治学者、市村今朝蔵が近衛別荘を購入(昭和8年に南原に移築、現在市村記念館)</p>	満州国建国。	駐日アメリカ大使ジョセフ・グルー赴任。
1933	昭和8年	<p>寺田寅彦、星野温泉に滞在。寺田寅彦「浅間山麓より」を発表。</p> <p>堀辰雄「美しい村」を発表。</p> <p>東京帝国大学地震研究所「浅間山火山観測所」開設。</p> <p>軽井沢町観光協会設立</p> <p>碓氷国道舗装完成(坂本～軽井沢間)</p> <p>「軽井沢音頭」発表。(西条八十作詞、中山晋平作曲)</p> <p>新渡戸稲造、カナダバンフでの「第五回太平洋会議」出席後、ビクトリアで死去(71歳)。</p> <p>新渡戸、死の直前にメリー夫人に「軽井沢のせせらぎの音を聴きたい」。</p> <p>箱根土地(株)、千ヶ滝区別荘「土地百坪に二十五坪別荘で二千二百円」等で販売。</p> <p>三井物産、南ヶ丘に別荘地開発¹²</p> <p>前田栄次郎、前田郷開発¹²</p> <p>政友村(離山)開発¹⁰</p> <p>市村今朝蔵、南原別荘地開発¹²</p> <p>別荘数903戸¹</p>	日本、国際連盟から脱退。 ヒトラー、ドイツ首相に就任。	堀辰雄『美しい村』『夏』より― 或る日のこと、私は自分の「美しい村」のノオトとして悪戯半分に色鉛筆でもつて丹念に描いた、その村の手製の地図を、彼女の前に擴げながら、その地図の上に萬年筆で、まるで瑞西あたりの田舎にでもありそうな、小さな橋だの、ヴェイラだの、落葉松の林だのを印しつけながら、彼女のために、私の知つてゐるだけの、繪になりさうな場所を教へた。
1934	昭和9年	<p>立原道造、初めて追分に1ヶ月程滞在、「村ぐらし」を発表。</p> <p>稲垣虎次郎『大軽井沢の誇り』(旧軽井沢周辺別荘700戸以上、約200軒の夏季出張店、等)</p> <p>鈴木喜三郎政友会総裁、泉の里に「政友村」作る。</p>		
1935	昭和10年	<p>聖パウロ教会開設(設計A・レーモンド)。</p> <p>丸岡明「生きものの記録」を連載(「三田文学」で昭和初頭の軽井沢を描写)。津村信夫「愛する神の歌」刊。</p> <p>別荘数1194戸¹</p>	ドイツ、国際連盟脱退。	
1936	昭和11年	<p>8月、軽井沢開発五十周年祭を開催(軽井沢避暑団、軽井沢教会堂、軽井沢町合同主催)</p> <p>諏訪の森神社で式典。名誉総裁尾崎行雄の講演後、ショー記念碑まで「軽井沢開発五〇年祭記念パレード」</p> <p>万平ホテルで記念晩餐会</p> <p>(万平ホテルは近代的設備のホテルに改築、収容人員165名、客室は現在も使用。)</p> <p>(7-8月の万平ホテル外国宿泊客、英国58名、米国41名、ドイツ23名、フランス10名、その他75名)</p>	2.26事件(斎藤実内相、高橋是清蔵相暗殺)。	

	→軽井沢での各国による情報収集活動、米国参事官ネヴィル、大使グルー、等。草津電鉄、軽井沢町において乗用自動車業を開始 塩壺温泉開業。	
1937	昭和12年 押立山ホテル完成。 浅間ブロック製造始まる。 立原道造 『萱草に寄す』自費出版。 川端康成 「高原」を発表。 追分旧脇本陣油屋消失。 別荘数1454戸	
1938	昭和13年 8月23－28日、ヒットラーユーゲント一行30名来軽、万平ホテル滞在、セミナー開催。 「軽井沢全町をナチス一色に染め上げた」(朝日新聞) 堀辰雄 「風立ちぬ」完成。 旧軽井沢に近藤十二軒長屋が出来る。 別荘数1483戸	
1939	昭和14年 特高警察の要視察・要注外国人数は500名を下らず。軽井沢で憲兵、私服警官が監視。 憲兵は軽井沢駅前の油屋旅館を宿舎にし、常時20、30人が詰める。 「この夏軽井沢に避暑滞在した外国公使館員は32カ国、106名に達し、うち大公使は23名に及ぶ。一般外国人は38カ国807名にして、昨年より約400名の減少を示す。」(外事警察) 軽井沢居住の外国人続々引き揚げ。 7月、堀辰雄、山荘(638番)を借り移り住む。	
1940	昭和15年 旧軽井沢中央通り大火(罹災28世帯、全焼15戸、半焼3戸) 近衛文麿、軽井沢の別荘で「大政翼賛会」の構想を練る。 軽井沢在住宣教師、帰国。 ダニエル・ノーマン 夫妻、40数年の在軽井沢に終止符、帰国。 正宗白鳥 、六本辻近くに山荘を建てる。	
1941	昭和16年 1月、堀辰雄 、別荘1412番を米国人スミス氏から購入(3500円)、4年間居住、「美しい村」にも登場。 (後、堀多恵子夫人より軽井沢高原文庫に寄贈、移設) 「軽井沢避暑団」と「軽井沢集会堂」が合併し「財団法人軽井沢会」となる。 ウイリアム・メレル・ヴォーリズ、軽井沢別荘に移る。 ヴォーリズ夫人、一柳満喜子氏、軽井沢幼稚園、軽井沢保育園園長を兼任。 米国グルー大使、万平ホテルで避暑。 松岡洋右前外務大臣、軽井沢で静養。 ダニエル・ノーマン追悼記念会。 ウイリアム・メレル・ヴォーリズ 、日本に帰化、一柳米来留と名乗る。 英米人別荘没収、大蔵省管轄、競売。志賀直哉、ネヴィル邸入手。 英米人帰国、ドイツ等枢軸国人が軽井沢に疎開。 開戦直前の避暑外国人は外交官、一般人併せて913名であった(大堀聰「心の糧」より)	
1942	昭和17年 荻原豊次、保温折衷苗代を創案。 軽井沢が、枢軸国、中立国人の疎開地になる。	
1943	昭和18年 吉川英治、星野温泉滞在。後に三笠に別荘を構える。 同盟国、中立国大使館が軽井沢に疎開。 町立軽井沢高等女学校創立 8月21日、鳩山一郎、近衛文麿ら「軽井沢会談」(伊東治正伯爵の翠雨荘) (翠雨荘は戦後シヨール・アイゼンベルグが所有)	
1944	昭和19年 スイス公使館、前田郷深山荘に疎開。 ソ連・トルコ大使館、万平ホテルで執務。 ドイツ、イタリア、フランス、スイス、オーストラリア、アルゼンチン、ルーマニア、ポルトガル、スウェーデン、スペイン、デンマーク、中華、トルコ、アフガニスタン、赤十字国際委員会が疎開。 5月、正田美智子(現上皇后陛下)、疎開、軽井沢第一国民学校初等科五年に御転入、九月まで在籍) 室生犀星、正宗白鳥、野上彌生子、沖野岩三郎ら疎開。 9月、堀辰雄、旧軽井沢から追分油屋に隣接する家に移る(1412番はドイツ夫人が一時住み、その後画家深沢紅子が約20年居住)。	

スペイン内乱。

11月、日独防共協定。

6月、近衛文麿(46歳)、首相となる。

7月、盧溝橋事件、日中戦争開始。

3月、国家総動員法可決。

1月、日米通商航海条約失効。

7月、米国、日米通商航海条約廃棄通告。

8月23日、独ソ不可侵条約締結。

9月、ドイツ、ポーランド侵攻、英仏、対ドイツ宣戦布告、

第二次世界大戦始まる。

9月、日独伊三国同盟調印。

10月、大政翼賛会発足、政党解散、経済統制強化。

「ぜいたくは敵だ」、パーマネント、ダンスホール、ジャズ禁止。

10月、米国政府、極東在住米国人に本国引き上げを勧告。

英国も同様に勧告。

7月、米国、米国内の日本資産を凍結、日本も米国資産を凍結。

10月、東条秀樹内閣成立、東条は内相、陸相兼任。

12月8日、日本軍、真珠湾攻撃、太平洋戦争開始。

6月、ミッドウェー海戦。

1945	昭和20年	<p>皇太后、近藤別荘に疎開。 ポツダム宣言受諾電報が、軽井沢のスイス公使館、スウェーデン公使館より打電(要検証)。 敗戦。三笠ホテル等、軽井沢町内ホテル・高級別荘等は米軍が接收、基地の様相。 終戦時には約1,500名の欧米系外国人が軽井沢に暮らす10</p>	<p>3月 東京大空襲 8月 広島、長崎に原爆投下 日本、無条件降伏。</p>
1946	昭和21年	<p>文藝誌「高原」創刊。高浜虚子『小諸雑記』刊。 中村真一郎「死の影の下に」を発表。佐藤春夫『佐久の草笛』刊。</p>	<p>日本国憲法公布。 華族制度廃止。</p>
1947	昭和22年	<p>満州国大日向開拓団37名が借宿地籍に入植。 国土計画、朝香宮別荘を譲り受け、プリンスホテルとして開業 天皇陛下、甲信地方ご巡幸、大日向開拓地をご視察 バイニング夫人、三井家別荘で避暑。</p>	
1948	昭和23年	<p>3月「軽井沢町農業協同組合」発足 野上彌生子「迷路・第一部」刊。 学制改革により、軽井沢高等女学校を「長野県軽井沢高等学校」と改称</p>	
1949	昭和24年	<p>「軽井沢観光協会」発足。会長 星野嘉助。 万平ホテルで米國務長官ダレスと蔵相池田隼人のトップ会談 「上信越高原国立公園」指定。 三島由紀夫「仮面の告白」刊。 旧軽井沢ゴルフクラブ発足。</p>	<p>中華人民共和国成立。</p>
1950	昭和25年	<p>4月 晴山ホテル開業。 軽井沢駅・杓掛駅に観光案内所開設。 皇太子、プリンスホテルに滞在。以後毎夏。</p>	<p>朝鮮戦争始まる。</p>
1951	昭和26年	<p>レタス栽培を始める。 4月 杓掛大火(罹災世帯108世帯、全焼81戸) 8月 「軽井沢町国際親善文化観光都市建設法」公布。 万平ホテル、三笠ホテル、新ゴルフなど接收解除。 町当局と別荘滞在者が協力して「清浄軽井沢」を守る運動が始まり、昭和26年に国に先駆け「売春取締り条例」制定</p>	<p>サンフランシスコ講和条約。 日米安全保障条約。</p>
1952	昭和27年	<p>12月 国道18号線開通。 谷川俊太郎「二十億光年の孤独」刊。福永武彦「風土」刊。</p>	
1953	昭和28年	<p>4月、米軍が浅間山演習基地計画を通知、反対県民大会等の運動で中止(7月)。 町、町民、別荘、県下各種団体の強力な支援のもとに演習地絶対反対の運動を展開 反対運動の中心となった、田部井健次、一條重美両氏らの呼びかけにより軽井沢文化人協会創立 (翌年、軽井沢文化協会に改称) 南軽井沢湖完成。 堀辰雄、追分で病没。谷川俊太郎『六十二のソネット』刊。</p>	
1954	昭和29年		
1955	昭和30年	<p>三笠宮崇仁親王、三笠に別荘を建てる。 尾崎士郎「浅間大噴火」を発表。岸田衿子『忘れた秋』刊。 昭和天皇皇后両陛下、皇太子殿下、軽井沢でご静養。 財団法人軽井沢南原文化会発足。 南軽井沢ゴルフ場9ホールで開場。</p>	<p>自由党、民主党が合同し、自由民主党結成。 第三次鳩山一郎内閣。</p>
1956	昭和31年	<p>4月 杓掛駅を中軽井沢に改称。 西武デパート軽井沢店開業。 第一回日本ジャンボリーを地藏ヶ原で開催。 軽井沢開発七十周年記念式典開催。 室生犀星「杏っ子」連載開始。 別荘数1,904 1</p>	<p>日本、国際連合加盟。</p>

1957	昭和32年	年間観光客数101万人。 阿部知二「日月の窓」連載開始。丹羽文雄「禁猟区」連載開始。 加藤興五郎氏、名誉町民となる	
1958	昭和33年	「 軽井沢町の善良なる風俗維持に関する条例 」制定公布 軽井沢文化協会、「 軽井沢の善良なる風俗維持に関する条例 」の制定を目指し軽井沢会と共に署名運動、 町議会の議決を経て4月1日公布、6月「軽井沢町風俗審議会」発足。 佐藤万平氏、名誉町民となる 別荘、2千戸を越す。	
1959	昭和34年	「軽井沢ユースホテル」営業。 第1回国際親善パーティー開催(長野県知事、軽井沢町長共催、以後恒例となる)	4月 皇太子ご成婚。
1960	昭和35年	3月 沓掛区を「中軽井沢」に改称。 国土開発(株)、レイクニュータウン開発に着手。 円地文子「高原抒情」刊。 別荘数2,353 戸	
1961	昭和36年	1月 晴山ホテル、人工降雪スキー場建設。(日本で最初) 1月 第16回国民体育大会冬季スケート競技開催。 6月 塩沢湖完成。 ユニオンチャーチ。	
1962	昭和37年	8月 全国知事会議開催。	
1963	昭和38年	2月 世界スピードスケート選手権大会開催。 信越本線碓氷新線横川～軽井沢間完成、軽井沢～長野間電化開通。 「軽井沢町資料館」開館	
1964	昭和39年	10月 オリンピック東京大会、総合馬術競技大会を軽井沢で開催。 夏期避暑客204万9千人。 別荘数3,383 戸	京都市、京都タワー問題
1966	昭和41年	横川～軽井沢間複線開通。 加藤周一「羊の歌」を発表。 軽井沢病院開設、軽井沢サナトリウムその役目を終える。建物は「軽井沢ヴィラ」として活用されたが、1995年解体された。 ¹⁰	京都市、古都保存法制定
1967	昭和42年	別荘数4,251 戸	京都市、古都保存法による歴史的風土特別保存地区の指定 (117ha→現在2,861ha)
1968	昭和43年	第1回「紅葉まつり」開催。 福永武彦「海市」刊。 別荘数4,531 戸	
1969	昭和44年	第1回「氷まつり」をスケートセンターで開催。 遠藤周作『薔薇の館・黄金の国』刊。	
1970	昭和45年	3月 軽井沢駅前大火。 別荘数5,095 戸	
1971	昭和46年	7月 「72ゴルフ場」オープン 7月 「軽井沢観光会館」落成式 旧軽井沢で「歩行者天国」実施。 11月「碓氷有料バイパス」日本道路公団と建設省により完成 「 長野県自然環境保全条例 」施行	
1972	昭和47年	2月 連合赤軍、浅間山荘に籠城(浅間山荘事件)。 8月 田中角栄首相、キッシンジャー補佐官と会談。(万平ホテル) 10月 「軽井沢バイパス」開通 10月1日、「 軽井沢町の自然保護対策要綱 」告示	京都市、市街地景観条例制定(全国に先駆けて) →美観地区、巨大工作物規制地域、特別保全修景地区

自然保護、ゴミ処理、水資源保護などの環境保全対策や、文化財保護対策の基準を示している。

12月20日、**軽井沢町長期振興計画審議会条例**→「軽井沢町長期振興計画審議会」設置

別荘数5,496 1

1973 昭和48年 晴山ホテル、プリンスホテルに改称。

ダストボックスによるゴミの収集が始まる

8月 町制施行50周年記念に「軽井沢町民憲章」制定

世界に誇る清らかな環境と風俗、かおり高い伝統と文化、緑ゆたかな高原の自然

11月1日、「軽井沢町の自然保護対策要綱」改正

京都市、市街地の大半に高度地区(中心部の高さを45mに)

1974 昭和49年 3月1日、「軽井沢町の自然保護対策要綱」改正

4月 ペンションー里塚開業。町内第1号。

6月 「野鳥の森」開設。

7月 軽井沢病院新築移転。

7月 国民宿舎「軽井沢高原荘」開業。

7月 信濃路自然歩道完成

1975 昭和50年 7月 「軽井沢植物園」開園

7月 スーパーマーケット「つるや軽井沢店」開店。

軽井沢町内のテニスコートは千面以上

円地文子「軽井沢」を連載(後「彩霧」)。**中村真一郎**「四季」刊。

文化保護法改正(伝統的建造物群保存地区制度の創設)

1976 昭和51年 6月29日、「**軽井沢の善良な風俗を維持するための要綱**」告示

1978 昭和53年 島崎清編著『軽井沢百年の歩み』(私家版)

1979 昭和54年 後藤明生「吉野大夫」を連載開始。

長野県自然環境保全条例「取扱要領」

1980 昭和55年 5月 旧三笠ホテル、国重要文化財指定。

11月 「軽井沢町資料館」開館。

別荘数8,353 1

1981 昭和56年 「高輪美術館」開館

1982 昭和57年 加賀乙彦「錨のない船」上・下刊。

メアリーフレイザー “A Diplomat’s Wife in Japan”(『英国公使夫人の見た明治日本』)

「**軽井沢ヴィネット**」発刊。

1984 昭和59年 小川和佑『堀辰雄 その愛と死』(旺文社文庫)

1985 昭和60年 5月 「ショー師記念胸像」除幕。(ショー記念礼拝堂庭)(軽井沢ロータリークラブ)

5月 田崎美術館開館。

7月 追分郷土館開館。

8月 軽井沢高原文庫開館、堀辰雄別荘(No.1412)移築。

宮本輝『避暑地の猫』刊。

別荘数9,999 1

1986 昭和61年 2月 世界スプリントスピードスケート選手権大会開催。

7月 「ペイネ美術館」開館

8月 「保健休養地軽井沢100年記念宣言」発表式、記念事業各種開催。

軽井沢文化協会、軽井沢別荘開発100周年記念事業として

「軽井沢を守った人々ー浅間山米軍演習地反対運動の思い出」田部井健次著を出版、

公開座談会:「軽井沢別荘生活の今昔」、軽井沢シンポジウム:「軽井沢の将来を考える」開催。

ショーハウス復元竣工。

1987 昭和62年 **中島松樹『軽井沢避暑地100年』**

小林収『軽井沢別荘史』

		宍戸實『軽井沢別荘史』	
1988	昭和63年	追分にシャーロック・ホームズ像建立。 南木佳士「ダイヤモンド・ダスト」を発表。 軽井沢新聞社「かわら版」発刊。	
1989	昭和63年	有島武夫 三笠別荘「浄月庵」を軽井沢高原文庫に移設。 大江健三郎「再会、あるいはラストピース」連載開始(後『治療塔』)。 軽井沢町『町誌にみる軽井沢別荘史』	
	平成元年	別荘数11,420 1	
1990	平成2年	風越公園アリーナ落成。 年間観光客数850万人。 軽井沢町の一般会計予算100億円となる 別荘数11,930 1	
1991	平成3年	第46回国民体育大会冬季大会開催。 6月 「脇田美術館」開館 堀辰雄文学記念館展示館改装及び書庫・旧宅復元工事完了 宮原安春 『軽井沢物語』	京都市、「土地利用及び景観対策についてのまちづくり審議会」答申 →北部保全・都市再生・南部創造の基本コンセプト
1992	平成4年	4月1日、 長野県景観条例施行	
1993	平成5年	上信越自動車道開通、碓井IC開設。	京都市、新京都市基本計画 →北部保全・都市再生・都心再生
1994	平成6年	長野県屋外広告物条例による特別規制地域に指定される 「軽井沢ナショナルトラスト」設立	
1995	平成7年	軽井沢ショッピングプラザ・ウェスト店開店 別荘数13,210 1	京都市、市街地景観整備条例の制定
1996	平成8年	9月25日、「軽井沢町の自然保護対策要綱」改正 10月1日、 軽井沢町自然保護対策「取扱要領」適用	京都市、景観規制区域の拡大・屋外広告物対策の強化・高さ規制の強化 (→美観地区932ha→1,804ha→1,956ha)
1997	平成9年	10月 北陸新幹線開業、新幹線軽井沢駅開設。	
1998	平成10年	長野オリンピック冬季競技大会・カーリング競技を軽井沢で開催。 第1回「ウインターフェスティバル」開催。	
1999	平成11年	3月 カナダ・ウィスラー市と姉妹都市提携調印。 6月 「室生犀星記念館」開館。 粗大ごみ処理施設完成	
2000	平成12年	2月 「軽井沢オリンピック記念館」開館 3月 「(旧)軽井沢駅舎記念館」開館 7月 軽井沢町都市計画マスタープラン策定 (都市計画法第18条2による都市計画の基本的方針) 8月 軽井沢ショー祭2000開催。 軽井沢町ホームページ開設 中島松樹編『軽井沢避暑地100年―増補新装版』 別荘数13,139 1	
2001	平成13年	1月6日、2月5日、「軽井沢町の自然対策要綱」改正 12月11日 「マンション軽井沢メソッド宣言」発表 (軽井沢町長佐藤・長野県知事田中康夫) 水村美苗「本格小説」連載開始。	
2002	平成14年	「軽井沢新聞」発刊。 1月1日、軽井沢町自然保護対策「取扱要領」改正 軽井沢町建築協定条例 軽井沢町地区計画等の案の作成手続に関する条例	

2003	平成15年	立松和平「浅間」を發表。 8月 町制施行80周年記念事業「町鳥一アカハラ、町獣一ニホンリス」制定。 第4次軽井沢町長期振興計画策定 天皇皇后両陛下下行幸啓。皇后陛下御歌碑完成。 10月27日「旧軽井沢森地区建築協定」長野県より認可(有効期間10年)。
2004	平成16年	浅間山中噴火 5月、「軽井沢都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」策定 6月18日、「 景観法 」公布 8月27日、「軽井沢町の自然保護対策要綱」改正 8月30日、同「取扱要領」改正
2005	平成17年	4月 軽井沢大賀ホール開館。 6月30日、「 景観法 」施行 「軽井沢の環境を考える」、8住民団体参加。 12月19日、「軽井沢町の自然保護対策要綱」改正 12月22日、長野県景観計画 公表 12月22日「 軽井沢まちなみメソッド宣言 」發表。 別荘数14,114 戸
2006	平成18年	3月23日、「 浅間山麓 景観育成重点地域 景観計画 」發表(4月1日施行) 4月1日、「 長野県景観条例改正 」施行(長野県建設部都市まちづくり課)(地域区分図含む) 9月28日、「軽井沢の善良な風俗を維持するための要綱」改正
2007	平成19年	3月27日、「軽井沢町の自然対策要綱」改正 4月 保健福祉総合施設「木もれ陽の里」オープン。 6月22日、「 軽井沢町まちづくり基本条例 」發表(8月1日施行) 7月31日、「軽井沢町の自然対策要綱」改正 8月1日、同「取扱要領」改正 8月、軽井沢の4別荘団体が会合を持つ。 中島松樹『軽井沢外国人墓地―避暑地軽井沢に眠る宣教師たち』
2008	平成20年	2月14日、施行規則第3条第11号イ「木竹の伐採に係る取扱について」適用 町制施行85周年記念式典挙行 「軽井沢緑の景観賞」制定(軽井沢町自然保護対策優良事業認定制度) 3月、4別荘団体代表が佐藤町長と会談、別荘団体連合会設立意向を伝える。 8月、軽井沢別荘団体連合会設立総会。 天皇皇后両陛下下行幸啓 リーマンショック(GFC)
2009	平成21年	リゾート、中軽井沢・星野区に「ハルニレテラス」を開業。 4月、軽井沢別荘団体連合会「宣言」、6月、「宣言」を佐藤町長に手渡す。
2010	平成22年	天皇皇后両陛下下行幸啓 3月、軽井沢別荘団体連合会、「別荘の新築・増改築」を作成、配布。 5月、軽井沢別荘団体連合会、軽井沢の樹木伐採について、軽井沢不動産協会と意見交換。 佐久市・軽井沢町・立科町 新ごみ焼却場施設整備に関する基本合意書調印 6月25日、「軽井沢の善良な風俗を維持するための要綱」改正 6月25日、「 軽井沢町の自然保護のための土地利用行為の手續等に関する条例 」施行 9月1日、同 施行規則 適用 9月1日、「軽井沢町の自然対策要綱」改正 10月1日、同「取扱要領」改正 別荘数15,040 戸
2011	平成23年	東日本大震災 4月1日、「軽井沢町の自然保護のための土地利用行為の手續等に関する条例」変更 天皇皇后両陛下下行幸啓 藤巻町長、初当選

京都市、職住共存地区の3点セットルールの導入
→都心部の高度地区の強化、特別用途地区の指定、美観地区の拡大

京都市、眺望景観創生条例制定
→38カ所の優れた「眺望景観」や「借景」の保全を図る
1) 眺望空間保全区域
2) 近景デザイン保全地域
3) 遠景デザイン保全区域

3月11日東日本大震災

2012	平成24年	<p>松家仁之「火山のふもとで」を発表。 佐久地域定住自立圏形成協定調印 都市デザイン室設置 7月、軽井沢別荘団体連合会、藤巻町長と面談、軽井沢町の長期ビジョンの展望を要望。 天皇皇后両陛下下行幸啓 六本辻ラウンドアバウト社会実験開始</p>	12月 第2次安倍内閣発足
2013	平成25年	<p>第5次軽井沢長期振興計画・前期（～平成30年、2018） 軽井沢風越公園カーリングホールオープン 軽井沢町地域交流施設くつかけテラスオープン 町立中軽井沢図書館（くつかけテラス内）開館 5月10日、「軽井沢町の自然対策要綱」改正 5月、軽井沢別荘団体連合会、「軽井沢町ランドデザイン像パブリックコメント」提出。 6月「第1回軽井沢未来構想会議」が有島武郎別荘「浄月庵」で開催。 町制施行90周年記念式典挙行 町の人口が2万人となる 天皇皇后両陛下下行幸啓 10月27日「旧軽井沢森地区建築協定」更新(有効期間10年)。 11月、軽井沢別荘団体連合会、軽井沢町議会議員と懇談会、別荘地の環境悪化について意見交換。</p>	
2014	平成26年	<p>女性模擬議会開催 2月14日から15日の積雪量99cmを観測(史上最高) スカップ軽井沢 リニューアルオープン 7月、軽井沢別荘団体連合会、町長と会談、土砂災害区域指定、自然保護審議会への別荘住民の参加、樹木伐採の規制、雪害対策等要望。 7月、風越公園総合体育館 オープン 長野県が軽井沢町をメイン会場としてサミット誘致を正式表明 天皇陛下御製碑除幕式 佐久市・北佐久郡環境施設組合設立 12月、軽井沢ランドデザイン発表、軽井沢未来構想会議</p>	
2015	平成27年	<p>旧スイス大使館(深山荘)を町指定文化財に指定 軽井沢町を含む長野県北部・中部の最大38万戸で停電発生 風越公園グラウンド リニューアルオープン 軽井沢町で交通大臣会合の開催決定 天皇皇后両陛下下行幸啓 藤巻町長、無投票で再選 9月9日、軽井沢別荘団体連合会、藤巻町長と会談、別荘地環境に関する要望書提出。 (1)太陽光発電設備を第1種低層住宅専用地域は設置不可、(2)軽井沢自然保護審議会への別荘民委員の増加、(3)「伐採率」制定を要望。 (10月、町長より回答、上記(1)のみ検討することとなった。) 4月1日、軽井沢町自然保護対策「取扱要領」改正 別荘数15,835（世帯数8,247、人口18,994）</p>	9月、国連サミット採択「持続可能な開発のための2030アジェンダ」 SDGs
2016	平成28年	<p>軽井沢22世紀風土フォーラム事務局 設置 3月29日、「民泊施設等の取扱基準」、「貸別荘の取扱基準」 5月、第1回 軽井沢22世紀風土フォーラム基本会議 旧近衛文麿別荘(市村記念館)を町指定文化財に認定 天皇皇后両陛下下行幸啓 9月、G7長野県・軽井沢交通大臣会合開催 別荘数15,969</p>	
2017	平成29年	<p>八田別荘を町指定文化財に認定 天皇皇后両陛下下行幸啓 弾道ミサイルを想定した住民避難訓練実施 12月1日、「軽井沢町の自然対策要綱」改正 12月1日、同「取扱要領」改正</p>	
2018	平成30年	<p>3月、第5次軽井沢長期振興計画・後期(平成30年(2018)4月～2023年3月)発表 9月7日、軽井沢の美しい自然景観を次世代へ</p>	

天皇皇后両陛下下行幸啓
聖パウロカトリック教会を町指定文化財に指定
岡村八寿子 『祖父野澤源次郎の軽井沢別荘地開発史』

- | | | |
|------|------|--|
| 2019 | 令和元年 | 1月、藤巻町長、3選で2022年までの3期目に入る
6月、G20 持続可能な成長のためのエネルギー転換と地球環境に関する関係閣僚会合開催
7月、軽井沢別荘団体連合会の代表者(15名)、軽井沢町議員(14名)と懇談会開催、意見交換。
10月、令和元年東日本台風(台風第19号)
別荘数16,312 (別荘15,965、会社寮258、学校寮89)、(世帯数8,810、人口19,234) 1 |
| 2020 | 令和2年 | 3月18日、軽井沢町2050年までにCO ₂ 排出実質ゼロ宣言
4月、新型コロナウイルス 緊急事態宣言
6月12日、「軽井沢町の自然対策要綱」改正
6月22日、「取扱要領」改正
10月、第22回軽井沢22世紀風土フォーラム基本会議

12月10日、「良質な軽井沢の別荘地宣言」(軽井沢文化協会、軽井沢別荘団体連合会、軽井沢自然景観会議)
12月10日、軽井沢自然景観会議、要望書と質問状
12月10日、旧軽井沢の歴史と景観を守る会(軽井沢別荘団体連合会の分科会)からの要望書 |
| 2021 | 令和3年 | 2月7日、旧軽井沢の歴史と景観を守る会(軽井沢別荘団体連合会分科会)からの景観保護に関する要望書
10月1日「軽井沢町環境基本条例」施行 |
| 2022 | 令和4年 | 3月8日、長野県景観条例に基づき、旧軽井沢の4地区の「景観育成住民協定」が、長野県より認定される(3月 |